広報もろやま　5月20日号　No.861
■発行　毛呂山町　■一部当り25.6円
■編集　秘書広報課広報広聴係

# 毛呂山思い出写真館

旧毛呂山小学校からＪＲ毛呂駅を望む
昭和42年ごろ（柴下直さん提供）

旧毛呂山小学校、現在の福祉会館付近から毛呂駅方面を写した写真です。中央に見える建物は毛呂駅の駅舎で、周辺には建物がなく、駅全体が見渡せました。現在は住宅が多く立ち並び、駅舎は確認しにくくなっています。

現在の風景

**お知らせ**
昭和６０年代ごろまでの昔の写真を募集しています。ご提供いただける方は、役場秘書広報課広報広聴係☎（２９５）２１１２内線３３２までご連絡ください。

# 徒然歳時記

## 枇杷

この時期、スーパーマーケットや商店の青果コーナーでは、黄色やオレンジ色の輸入物の柑橘類が山のように陳列されているなか、体裁の良い箱やパックに納まって売られている枇杷がひときわ目に留まります。薄いオレンジ色の皮をするすると剥き、ぷっくりとしたみずみずしい実にかぶりつくと、さっぱりとした甘みの果汁と、のど越しの良い果肉で好まれる人も多いのではないでしょうか。

実の大きいものほど高級で、卵よりも大きく１個100グラム以上になるものもあります。主な産地は長崎県、千葉県、香川県など比較的暖かい地域となっていますが、江戸時代には毛呂山町でも枇杷が多く栽培されていたという記録が残っています。「新編武蔵風土記稿」の滝ノ入に関する部分の記述で「土産」としての枇杷とゆずが土地の産物として取り上げられています。生産量は「年々百駄以上を出せり」という記述から、現在の単位に換算するとおよそ年間13トン以上の収穫量であったと考えられます。それに対しゆずの生産量は「数十駄」と記述されていますので、枇杷のほうがいかに多く生産されていたかが分かります。現在、町内で枇杷の木をそれほど多くは確認できませんが、毛呂山町が枇杷の産地の一つとなっていたのではと考えるのも楽しいものです。

ところで、枇杷を食べ終えた後のあの大きな種。庭に植えたら実がなるのではないかという期待を持ってしまうほどに立派ですが、「桃栗三年柿八年」に続く言葉で「枇杷は九年でなりかねる」という言葉からすると簡単ではなさそうです。

皆さんも食後のデザートにいかがでしょうか。その際、枇杷の果汁は衣類に付くと付くとシミになりやすいので召し上がる時にはご注意を！

**編集後記**
４月の異動で広報担当に仲間入りをしました。初めてのことばかりで戸惑いつつも、仕事を通じ成長する機会に恵まれたことに感謝しています。町内の人たちと取材でお会いできる日が待ち遠しいです。（O）

# わがやのアイドル

三田村 咲優希ちゃん
（１歳３か月）
３月30日、赤ちゃんが産まれてお姉ちゃんになりました。妹が泣くとすぐに寄っていきます。お姉ちゃん業頑張ってね！

北郷　新くん
（１歳９か月）
３人兄弟の末っ子。甘えん坊で、ちょっと泣き虫。カーズとトトロが大好きで、最近は色んな言葉を話せるようになってきました。お兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に元気に大きくなってね。

■秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。
申・問　役場秘書広報課☎（295）2112内線332

人口　36,134人（＋50人）
【男 17,997人（＋22人）　女 18,137人（＋28人）】
世帯　15,854戸（＋88戸）
※平成24年5月1日現在（カッコ）内は前月比

□広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。

〒350－0493 埼玉県入間郡毛呂山町中央2丁目1番地
TEL 049(295)2112　Fax 049(295)0771
URL http://www.town.moroyama.saitama.jp

VEGETABLE OIL INK
植物油インキを使用しています。